

簡易認知機能スケール あたまの健康チェック®

一般社団法人日本脳ドック学会 認定施設における採用事例（その①）

洛和会音羽病院 健診センター

当センターの脳ドック受診者層は 40-60 歳が中心であり、従来検査法では、陽性の場合「認知症の疑いあり」となるため受診されない傾向があります。「できることならば予防の余地がある、より早期の状態の変化を知りたい」というのが脳ドックの受診者さまから聞かれる潜在的な声でありました。

当院では、2017 年度から「あたまの健康チェック®」を採用しており、本スケールでは、数値低下領域であっても「あたまの健康活動を始めましょう」とまだ健常な状態であるが認知機能に微細な変化を検出したとの結果を案内できるようになり、受診者の機能低下予防に対する正しい知識構築や意欲の向上に寄与する検査として有効に活用できています。



メディメッセ桜十字

昨今、増加している認知症は社会問題となっているため、受診者の皆様からの検査ニーズも高まっています。いまだ有効な治療法がなく、現時点では予防あるいは発症を遅らせることが唯一の対策となります。このため、脳ドックで微細な認知機能の変化をとらえ、早い段階で生活習慣病を改善することの意義は認知機能低下の予防にとって小さくありません。

当院では、若年層やもの忘れの訴えない頃から認知機能の定期評価が行える「あたまの健康チェック®」を取り入れることで、地域における認知機能低下予防の早期啓発・促進につながる取り組みに寄与して参ります。

大分県厚生連健康管理センター

当センターは、大分県では初めて「あたまの健康チェック®」を認知機能低下の訴えない方にも幅広く受診いただける、新しい認知機能チェック検査として導入しました。脳ドックにおける認知機能検査だけではなく、単独のオプション検査として症状の有無に関わらず、希望の方には受検していただいています。

学会ガイドラインでは「認知症予防は中年期から」との位置づけが示され、中年期から認知機能低下予防を目指した定期的な認知機能の状態把握とリスク管理を提供し、健診受診者の皆様に満足していただけるような健診施設として今後も努めていきたいと考えます。



公益財団法人操風会 岡山旭東病院 健康センター

当院は、「脳・神経・運動器疾患の総合的専門病院」として 1991 年 7 月に脳疾患・血管障害の予防を目指して岡山県下初の「脳ドック」を開始しました。学会認定施設として、ガイドラインに準拠した検査内容を提供することを心がけています。

本学会でも推進される中年期からの認知症予防を地域で推し進めるため、若年層から受けられ、認知機能状態の経時変化がとらえやすい「あたまの健康チェック®」を当院では、2020 年度より脳ドックオプション検査として試験的に提供を開始し、運用安定後、脳ドックの標準検査項目とすることを予定しています。

簡易認知機能スケール あたまの健康チェック®

一般社団法人日本脳ドック学会 認定施設における採用事例（その②）

社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 予防医療センター

受診者層に適した認知機能検査

当センターでは 2019 年 4 月から、脳ドックの検査項目の一つとして、あたまの健康チェック® の運用を開始しました。従前は、前頭葉検査である「かなひろいテスト」を実施してきましたが、受診者が飽きる、質問内容を覚えてしまう、あるいは実施検者により結果のばらつきが生じる等の課題があり、見直しの必要に迫られていました。

ICT を利用した認知機能スクリーニング検査については複数のものを検討しましたが、認知症の有無を簡易評価するものや長時間を要するもの、逆にあまりにも簡単な検査のため、若年層で健常（健常～ MCI 群）な健診受診者に適用するには躊躇するものが多かった中、あたまの健康チェック® は、検者の知識や技量を問わず 10 分間で高精度の検査が実施可能である点や、学習効果が懸念されない、認知機能の客観データを経年評価できる点などは採用に至った大きなポイントでした。運用面についても、スタッフ配置やスケジューリングが、従来よりも柔軟になり運用効率が向上しました。



認知症予防活動に積極的な認定施設として

日本脳ドック学会ガイドライン 2019 からは、「脳卒中と認知症予防のための医学会」と表記も新たとなり、認知症予防活動にも積極的に関与していく必要があると認識しています。ガイドラインを参照すると、「MCI から認知症への進行を予防するには、中年期から危険因子である高血圧や糖尿病、脂質異常症などの管理と適度な運動が推奨される」とあります。

従前のように認知症の疑いのある方をスクリーニングするだけでなく、今後は、まだ健常な時期から自身の認知機能状態を定量的に把握し、リスク要因とされる生活習慣病等の管理を積極的に促す仕組みが今後の脳ドック実施施設として求められていると考えています。このような観点からも、あたまの健康チェック® は、認知症の予防活動における認知機能検査として最適なスケールであると認識しています。

受診者のニーズと現場スタッフ評価の両立

ガイドラインで示されるように、中年期以降で、危険因子である高血圧や糖尿病、脂質異常症などの問題を有する方には積極的に勧めて行きたいと考えています。認知機能の状態を定量的に評価し、これを意識することで日々の健康管理につなげることは、受診者にとり、これまでに無かった大きなメリットとなります。

運用を開始し半年を経過しましたが、これまでの受診者からは「ゲーム感覚で楽しめた」、「自身の今の記憶力を初めて知ることができ良かった」等の前向きな意見が多く聞かれています。担当スタッフからは、検査環境のガイドに従い検査を実施すれば良いため従来法よりも容易に検査実施ができ、検査後の結果入力や書類管理の作業が削減された点についても好評です。あたまの健康チェック® では検査結果が定量的に数値化されるため、従来法では難しかった経年的な変化が評価でき、健常群への予防意識の啓発・教育や MCI 状態の早期発見や病院受診のタイミングの判断にとっても有用なものになると期待しています。



あたまの健康チェック® ウェブサイト
millennia-corporation.jp

お問い合わせ・ご導入相談はこちら

